

自著 行間を語る

決済システムのすべて



「海外の決済システムは  
どこまで来ているのか」

欧米の決済システムの現  
地調査に出かけた筆者たち  
(中島・宿輪)は、その姿  
貌ぶりと進化の速さに驚き  
を禁じ得なかった。

ネットバンクを短いイン  
ターネットで構築する「ハ  
イブリッド・システム」や  
一つの決済システムの中に  
RTGS(即時クロス決済)  
の機能とネット決済の機能  
の両方を備えた「インテ  
グレイテッド・システム」な  
ど、従来みられなかった革  
新的な仕組みの決済システ  
ムが、技術革新の成果もあ  
つて続々と登場してきてい  
る。

また、証券決済システム  
と資金決済システムをリン  
クしてDVPを実現する動  
きや決済データに支払明細  
データを添付して送信する  
「金融EDI(電子データ  
交換)」導入の動きなどが  
急速に進んでいる。

こうした十年に一度とも  
言われる世界的な決済シ  
ステムの大変革の動きを国内  
に広く発信しなければと  
思いが本書の執筆につな

基礎から最新動向まで

金融情報システムセンター  
(FISC)調査企画部長

中島 真志

っている。

また、都銀等の決済関係  
者からは、「決済に関する  
共通の認識が十分得られて  
いないため、行内で決済関  
連の企画を上げてもなかな  
か話が通らない」との声を  
聞いていたこともあって決  
済に関する基本知識の幅広  
い共有ができるような「決  
済の基本書」とすることも  
目指した。

このように、決済のプロ  
セスや決済リスクなどの決  
済の基礎知識から、海外の  
決済システム改革の最新動  
向までを網羅することとし  
たため、執筆開始から出版  
までは約一年を要したが、  
お陰様で決済関係者からは  
好評を頂いている。

また、「日銀決済のRT  
GS化」の時期と重なった  
こともあり、この種の本と  
しては珍しく、ビジネス書  
のベストセラーの一角を占  
めるなど、予想外の出足で  
出版社を慌てさせたと言  
う。

なお、本書では、最終章  
でわが国における決済シ  
ステム改革の方向性につい  
ても論じている。本書が、決  
済に関する関係者間の共通  
認識の醸成に役立つことも  
に、わが国における決済シ  
ステムの見直し議論につな  
がれば、望外の幸いである。

(三和銀行の宿輪純一氏と  
の共著、東洋経済新報社  
本体価格三千二百円)